

10
2019

湯原図書館だより



読書週間×ハロウィン 特別イベント



オバケさがしゲーム

湯原図書館の中に、何か「言葉」をしゃべっているオバケたちがかくれています。
全員見つけて、何と言っているか台紙に答えを書いてください。
台紙はカウンターでお配りします。

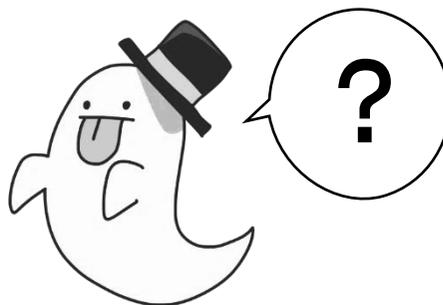
【期間】

10月26日(土)～11月9日(土)

【時間】

9:30～16:30

(時間内ならいつでもご参加いただけます)



読書週間 がはじまります



10月27日～11月9日 は
読書週間です。今年の標語は、
「おかえり、葉の場所で待ってるよ」。
この機会に、ぜひ読書をお楽しみください。

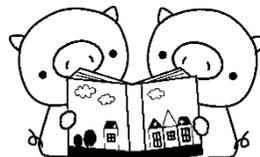
絵本の日のご案内

乳幼児を対象とした絵本のよみかかせが
あります。皆さまお誘いあわせの上、
ぜひお越しください♪

10月23日(水) 10:30～

場所:つどいの広場

【問い合わせ先】0867-62-2170(つどいの広場)



ゆばらとしょかん
湯原図書館

まにわしとよさか
真庭市豊栄1515
湯原振興局 1F

【TEL】

0867-62-2011

かいかんじかん
【開館時間】

ごぜん 午前9:00～ごご 午後5:00



◀ 今月のカレンダー ▶

【休館日】毎週月曜日

その他、臨時休館になる場合があります

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

休館日の返却本は、湯原ふれあいセンターの
玄関にある返却本ポストへ入れて下さい。



新書 本 紹介



「老父よ、帰れ」/久坂部羊

老人ホームから認知症の父を自宅に引き取った、45歳の好太郎。介護の基本方針をたててはりきって取り組むのだが……。

高齢者医療を知る医師でもある著者が描く、

懸命に介護すればするほど空回りする泣き笑い「認知症介護」小説。



「穴掘り」/本城雅人

遺体なき殺人事件を捜査する刑事・信楽征一郎。年間9万件の届出がある行方不明者届、その中には殺されている人も大勢いる。

暗い地面の下に埋められた遺体の声なき声を聞き、ベテラン刑事は執念で逮捕する…。悲しき6つの

事件を綴る珠玉の連作短篇集。



「落日」/湊かなえ

新人脚本家の千尋は、新進気鋭の映画監督・長谷部から、新作の相談を受けた。引きこもりの男性が高校生の妹を自宅で刺殺後、放火して両親も死に至らしめた——この

15年前に起きた、判決も確定している事件を手がけたいというのだ…。絶望の淵を見た人々の祈りと再生の物語。



「伊勢佐木町探偵ブルース」/東川篤哉

伊勢佐木町に事務所を構える私立探偵・桂木圭一がある日、知らぬ間に再婚していた母親を訪ねると、お相手は神奈川県警本部長だった。しかもその息子は伊勢佐木署の

イケ好かないエリート刑事で…。やたらと現場で鉢合わせる義兄弟、このビミョーな関係は一体どうなる！？



「主婦やめます！」/桜川ヒロ

夫の突然のリストラ。子供は育ち盛り。困った松枝梨沙は、主婦友の奥竹美加子、汐田梅の3人で家事代行会社『チーム松竹梅』を立ち上げた。——舞い込むのは手強いお客様

ばかり。依頼人たちの事情に親身に寄り添いつつ、無事に仕事をやりきることが出来るのか！？



「罪と祈り」/貫井徳郎

元警察官の辰司が、墨田川で死んだ。息子の亮輔と幼馴染みで刑事の賢剛は、賢剛の父の自殺とのつながりを疑うが…。

隅田川で死んだふたり。そして時代を揺るがした未解決誘拐事件の真相とは？ 男たちの「絆」と「葛藤」を描く、儚くも哀しい衝撃の長編ミステリー。



「泣くな研修医」/中山祐次郎

新米医師の毎日は、何もできず何もわからず、先輩医師や上司からただ怒られるばかり。だが患者さんは、待たなして押し寄せる。生活保護で認知症の老人、同い年で末

期がんの青年、そして交通事故で瀕死の重傷を負った5歳の少年……。新米医師の葛藤と成長を圧倒的リアリティで描く感動の医療ドラマ。



「落花狼藉」/朝井まかて

江戸時代初期。葦の生う辺地に徳川幕府公認の傾城町、吉原が誕生した。公許は得ても、陰で客を奪う歌舞妓の踊子や湯女らに

悩まされ、後ろ楯であるはずの奉行所には次々と難題を突きつけられる。遊女屋の女将・花仍は傾城商いの酷と華に惑い、翻弄されながらも、やがて町の大事業に乗り出す…。吉原の黎明を描いた傑作長編小説。



「地先」/乙川優三郎

心は、色褪せてはいない。人生の後半にさしかかった女と男。艶めいた思い出と、思いがけない出来事で揺れる…。

「そして人生は続く」という言葉が読後に余韻として漂う、来し方と前途のあわいで闘う人々を描いた8篇の傑作短篇集。



「神奈川宿雷屋」/中島要

雷屋の女中・お実乃は、宿泊客の世話が仕事だ。もぐりで割高な雷屋に泊まるのは、癖の強いお客ばかり。一本気で働き者のお実乃はしょっちゅう振り回されている。

ある日、その雷屋で宿泊客が謎の死を遂げる。不信感を抱いたお実乃は、真相を探ろうとするが…。幕末の宿場町を舞台にした本格時代推理。



「万波を翔る」/木内昇

開国から4年、幕府は外国局を新設した。実力本位で任ぜられた奉行は破格の穎オゾロイ。そこに鼻っ柱の強い江戸っ子の若者が

出仕して…。黒船来航で開国した幕末の日本に吹く尊皇攘夷の嵐の中、外交の礎を築いた異能の幕臣たちがいた。勝海舟から渋沢栄一まで、東奔西走！『日本経済新聞』夕刊連載を単行本化。

- ・20 CONTACTS 消えない星々との短い接触(原田マハ)
- ・戦国十二刻 始まりのとき(木下昌輝)
- ・腸詰小僧(曾根圭介)
- ・某(川上弘美)
- ・遠い他国でひょんと死ぬるや(宮内悠介)
- ・流葉断の太刀 裏用心棒譚②(上田秀人)
- ・おいしいペランダ⑦(竹岡葉月)